日本の「現場力」はロボット導入の壁か、武器か？

日本の製造業は高いロボット密度（世界4位）を誇る一方、熟練者の高い適応力や人件費の相対的低さが自動化の採算を厳しくさせる局面がある。自動化の成功には、現場力を障害ではなく「設備への知恵の移植者」として再定義し、工程全体で投資対効果を評価することが不可欠である。

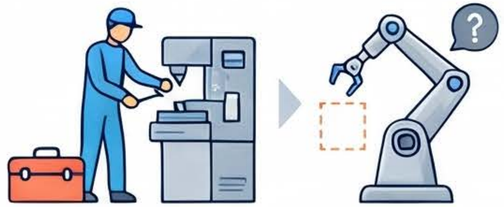
現場力がもたらす自動化の「壁」

人の柔軟さによる採算の壁



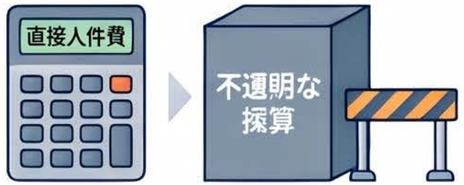
人の柔軟さで一部自動化の採算悪化

暗黙の調整による仕様抜け

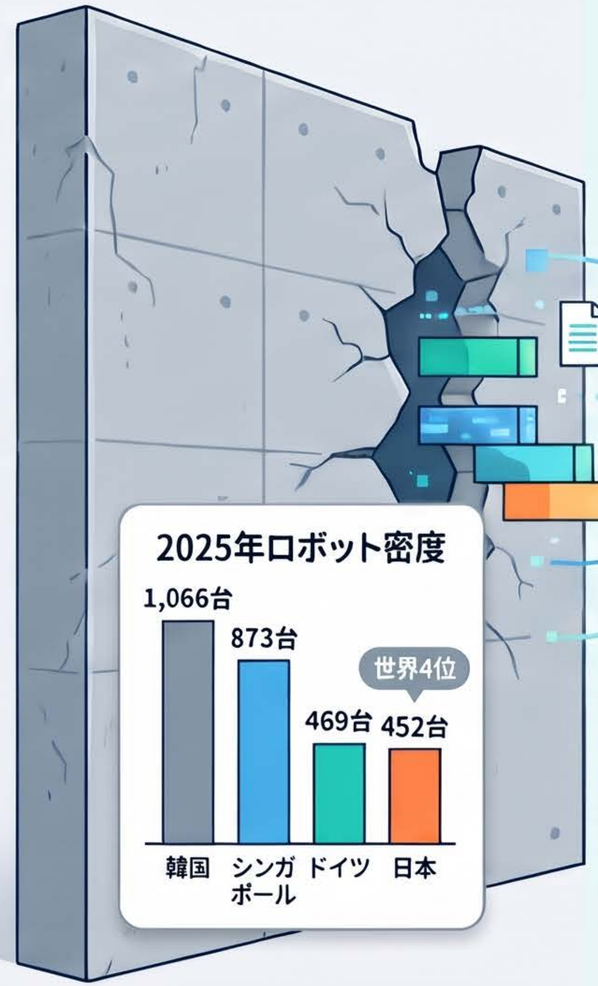


熟練者の暗黙調整で仕様が抜け落ち

直接人件費のみの評価限界



初期費と不透明な採算が導入の障壁



2025年ロボット密度

現場力を「武器」に変える導入・評価戦略

熟練者を自動化の「教師」へ



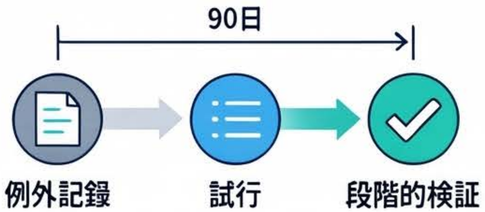
熟練の知恵を記録し設備へ移植する

総合費用と供給力での成果計測



良品当たり総費用や復旧時間で測る

段階的な90日検証の実行



Gemini Notebook